

日時：令和4年3月22日

開会 午後3時15分

○大阪市経済戦略局（渚上課長代理） それでは、定刻になりましたので、令和3年度第2回大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

本日の評議会は、大阪イノベーションハブの会場とインターネットを通じて相互に映像と音声の送受信を行う、いわゆるウェブ会議の形式で進行するとともに、Y o u T u b eにより同時配信しております。

まず初めに、各委員と映像及び音声の相互通信に問題がないか確認させていただきたいと思えます。

岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員 大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（渚上課長代理） お願いします。

山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 問題ありません。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（渚上課長代理） ありがとうございます。通信状況の確認は以上です。

本評議会は、参考資料2の執行機関の附属機関に関する条例に基づき設置されており、グローバルイノベーション創出の支援に関する事項の調査審議及び市長に対する意見の具申をお願いするものです。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最初に、開会に当たりまして、大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の川村から一言御挨拶申し上げます。

○大阪市経済戦略局（川村部長） 大阪市経済戦略局イノベーション担当部長をさせていただきます、川村と申します。よろしくお願いいたします。

委員の皆様にはお忙しい中、本日は御出席をいただきまして、ありがとうございます。

本協議会は大阪市のイノベーション創出支援施策を実効性のあるものとして推進していくため、グローバルイノベーションやスタートアップ支援に精通をされております皆様から、専門的知見に基づく評価や助言をいただくことを目的として開催をするものであります。

本日は、今年度事業の主な取組を御報告するとともに、今後の取組の方針、それと事業施策等にかかる御助言や御意見を賜りたいと思っております。

どうぞ本日はよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○大阪市経済戦略局（淵上課長代理） 川村部長、ありがとうございました。

それでは、これより北岡委員長に議事進行をお願いいたします。

北岡委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

○北岡委員長 北岡です。それでは、皆さんよろしくお願いいたします。

それでは、議事を進めてまいります。資料1枚目の次第を御覧ください。

本日の議題は一つ目、令和3年度の主な取組みについて。二つ目、令和4年度の取組み方針についてとなっております。

まず、議題1については事務局より説明いただいた後、各委員から御意見や御感想をいただきたいと考えております。また、その後、議題2について事務局より説明をいただき、皆様から御意見、御感想をいただきたいと思っております。円滑な議事進行に御協力をお願いいたします。

それでは、議題について、事務局から説明をお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） イノベーション課長代理の田原と申します。

まず、議題1、令和3年度の主な取組みについて、お手元の大阪市イノベーション促進評議会資料に沿って御説明いたします。

流れは次のとおりです。まず、おさらいとしまして本市の取組の背景、それから前回8月の評議会でもいただいた主な御意見の御紹介です。そのあと、グローバル拠点都市としての大阪のエコシステム、その後、今年度の大阪市の取組と目標の達成状況、その後、成果事例の紹介とか、産学官連携について御説明した後、最後に大阪の現状と課題です。ここ特に皆様方から御意見頂戴したいところであります。

なお、この本会議は大阪市の評議会ですので、基本的には大阪市の取組の説明になるのですが、エコシステムの特徴とか、課題については大阪府下全域のお話しますし、あと広域で取り組んでいることについては京阪神地域のことを御紹介いたします。

それでは資料に沿ってまいります。まず、2ページの背景です。

我々の事業は左上にありますように、大阪市の産業の発展と経済の活性化を目指して、イノベーションやスタートアップが次々と生まれ、成長する環境をつくることになってまいります。前回の評議会でも触れましたように、今年度からはスタートアップ支援の事業手法を見直して進めております。

具体的には、右上に書いておりますように、大阪市が仕様書を作って、事業者を選定して実施する委託の方式ではなくて、大阪産業局に対する交付金事業として、大阪産業局が自主

的・弾力的に事業を実施するようにしました。これにより、自治体の単年度主義に陥らないような時流にのった支援事業ができるようになっております。

次、3ページにまいりまして、大阪市のイノベーション創出支援の体系ですけれども、これ一番下にありますエコシステムの構築とスタートアップの創出・成長、これが我々の大きなミッションになります。このミッションに向けて大阪市のOIHを中心に実施している事業と、国とか、京阪神と連携して実施している事業を相互に連携して、相乗効果を出しながら進めているところであります。

大阪産業局への交付金との関係では、この左上の大きな四角で囲んだ部分です。大阪市のイノベーション創出支援事業と書いてありますが、こちらが交付金化してやっている事業になります。具体には、この大阪イノベーションハブなどで、コミュニティ形成とか、人材育成、それからプロジェクトの創出を目指して、様々なイベントやプログラムを実施しておりますが、実施に当たりましては、交付金化して進めることのメリットを生かしまして、例えば、前回の評議会でいただいた意見なども、可能なものは速やかに反映させながら取り組んでいるところでございます。

また、人材や資金の大阪への引込みとか、海外への情報発信などは、やはり京阪神一体となってやる必要がありますので、こちらは国、経済界、大学、それから大阪府、京都、神戸、各都市とも連携しながら事業を進め、大阪、関西全体のエコシステムの強化にも取り組んでおります。

続きまして4ページ御覧ください。

こちらは、前回8月20日の第1回の評議会でいただいた主な御意見を項目ごとに整理したものでございます。これらを踏まえて各事業に取り組んでおるのですけれども、主な意見といたしましては上から、まず、スタートアップのニーズ把握の必要性にかかる御意見いただきました。それから、大阪、関西のエコシステムの状況や魅力の発信です。それにより大阪に人が集まるようにしていくと、そういう御意見もいただきました。それから支援プログラム、いろいろイベントやアクセラレーションプログラムをやっているんですけども、これに関する意見もいただきました。最後に、やはり1社です。この花開かせるという表現してまうけれども、そういうところを生み出すことがやはり重要で、そこから裾野を広げていくと、そういう御意見がございました。

今回、これに基づいていろいろ資料も作っております。

続きまして、5ページを御覧ください。

こちらは拠点都市、一応、皆様よく御存じのお話かと思しますので簡潔にまいりますと、一昨年の7月のグローバル拠点都市の選定以来、京阪神は様々な国の支援を受けてまいりました。この左下にありますが、各省庁が提供している様々なプログラムがございます。特にその中でもJETROが運営してます海外アクセラレータによるプログラムです。これちょうど先週、今年度分が完結したところですが、昨年と今年の2期やりまして、そのプログラムに対して大阪からは合計18社、京阪神からは合計46社が参加しております。特に今年の方はコースも海外展開用の準備のものとか、ヘルスケア、クリーンテックなど分野にも分かれて、かなりきめ細かくなっているのが特徴でございます。これらのプログラムに参加した大阪のスタートアップの中には、参加をきっかけとして国内外の大企業や投資家との連携とか、海外見本市への出展などに至ったところもあって、成果は出ているところでもあります。

右下にコンソーシアムと書いてありますが、拠点都市をやっております大阪のコンソーシアムです。現在、産学官金の合計50団体程度で構成されておまして、大阪産業局が事務局を務めております。OIHが、大阪イノベーションハブがその拠点となって、様々な取組や連携を通じてエコシステムの構築、こちらを進めているところでございます。

続きまして、6ページ御覧ください。

こちらからは大阪の取組になるのですが、まず、上段は大阪の強み、特徴です。こちらに書いております。研究シーズ、人材、産業が集積している。コミュニティが充実しているところといった特徴のほか、やはり万博とか、うめきた2期のように大阪にしかない巨大プロジェクトを控えておるところも特徴でございます。

また、大阪コンソーシアムでは、大阪産業局が中心となって、今年度からO-STEPという独自の情報発信に取組を始めております。資料の下のほうです。コンソーシアムの各メンバーがリソースとか、課題とか、既にやっておられる支援プログラム、こういった情報を産業局に持ち寄って発信して、組織的にスタートアップの支援や課題解決等に進めることを目指したものでございます。こちら前回いただいた御意見等も反映できるように取り組んでいるところでございます。

続きまして、7ページ御覧ください。今度京阪神のお話です。

京阪神の各都市は本当に皆様御存じのように、従来からそれぞれの都市ごとに特徴のある取組をしてきております。したがって、その良さはやはり残しながら国内外への情報発信とか、大規模なイベント、機運醸成とか、そういうスケールメリットを生かせるものは連携し

て少しずつ進めてきたところでございます。ここに、資料に書いておりますのは、KANSAI FUTURE SUMMIT、皆様方も関わっていただいております大きなイベントとか、あとは次のスタートアップ、アクセラレーションプログラムに参加する企業を呼び寄せるためのイベントとかをやっておったのですけれども、その中でも最も象徴的で、今後の効果が期待される取組というのが大学間連携になります。こちら関西の15大学、それから産官の41機関が参画するプラットフォーム、K、S、A、Cと書いて、KSACと呼びますけれども、KSACを作りまして文科省等の支援事業も活用しながら、本格的な活動を始めております。こちら後ほど御紹介いたします。

続きまして、8ページ御覧ください。

令和3年度、今年度の取組ですけれども、大阪イノベーションハブでは、コロナ禍でオンラインが主体になってからも年間200を超えるイベント、プログラムを実施してまいりました。オンラインだからこそ活発になったことの一つが海外との連携になります。これまで関係のなかったところも含めて、ネットワークを広げてピッチイベントとか、マッチング支援など少しでもできるところから続けていきたいと思っております。

それから下の段です。プロジェクトのショーケースというのを先ほどの体系図でも書いておりましたけれども、国際イノベーション会議Hack Osaka、こちら先月、2月10日に開催いたしました。一般参加はオンラインのみになったのですけれども、合計803名の参加をいただいております。今回は万博も見据えて、次世代モビリティとか、インフラとか、そういった産業分野を中心に、大阪のエコシステムを世界に紹介して、海外スタートアップへの大阪の吸引力の向上を目指すと、そういう趣旨でやってまいりました。

それでは、この間の成果です。数字で示すとどのようになっているのかというのを、次の9ページで御紹介いたします。

まず上段は、一昨年、拠点都市として国に申請した拠点計画に記載している大阪全体のコンソーシアムとしての目標でございます。国に中間報告をしたのが、ちょうど選定後1年、昨年7月ですけれども、その時点のものでいきますと順調に進捗しております。特にスタートアップの創出、うち大学発スタートアップの設立件数とか、比較的高額の資金調達に成功したスタートアップの件数です。こちらは順調に進捗しております。目標としているペースは大きく上回っております。

それから万博を見据えたプロジェクトの企画、支援体制の整備、そしてプロモーション、これらが最近各方面で進んできておりますので、今後はこちらにも注力していきたいと考え

ております。それから下の段は、先ほど御紹介しました大阪産業局への交付金事業を実施する大阪市独自の目標でございます。特に資金調達の支援では、当初の目標を大幅に上回る成果が出ております。

続きまして、10ページから11ページにかけては、この間、大阪産業局、OIHが関わった注目のスタートアップを紹介しております。この場で御紹介したい企業たくさんございますけれども、今回はこの御覧の4つのカテゴリーで代表的なものとしております。順番に、拠点都市への支援メニューの活用、大学発のスタートアップ、OIHのプログラム活用、それから海外のスタートアップです。大型資金調達とか、NDAの締結のように具体的な成果に至る企業もあるのですが、特に大事なのはやはりイベントとか、プログラムをやった後のきめ細かいフォローアップです。例えばメンタリングとか、適切なパートナーに接続することとか、資金の獲得を一緒になって伴走して支援することとか、こういったことが成果につながりますので、今後もこの辺にはしっかり取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、12ページ御覧ください。

こちらはOIHのパートナーという書き方をしておりますけれども、OIHでは起業家、その予備軍とか、実際事業を推進する。大体スタートアップ企業メインなんですけれども、こういったプレーヤー以外に、エコシステムを構築するために大企業、投資家、政府機関、メディア、こういった方々の力も非常に重要だと考えておまして、OIHでは、パートナーと呼んで登録、協力関係、機関を増やしております。特に今年度は大手の金融機関やVCのパートナーへの登録が目立っております。特に資金調達環境が課題の一つになっております大阪としては、これはいい傾向だと思っているのですが、さらに多彩なパートナーの協力を得て、大阪のエコシステムの達成化につなげていきたいと考えております。

続きまして、産学官連携のお話をいたします。まず13ページです。

産学官連携につきましては、京阪神全体のものとして、こちら2つのプラットフォームを紹介しております。K、S、I、I、というものと、先ほど触れました。K、S、A、C、KSACです。両者はイベントとか、起業家教育のプログラムで連携を図っております。特に下のほうのKSACは、今年度文部科学の大学発新産業創出プログラムに採択されたものでして、次年度が本格的なスタートになります。こういったプラットフォームには、いずれも産学官とか、起業家教育に取り組む京阪神のほとんどの大学に加盟をいただいております。これは実質、大学を中心に京阪神連携が進んできていると考えております。自治体も京阪神の6府県市が幹事自治体として参画してまして、大阪市としても人材育成に貢献していき

いと考えております。

続きまして、14ページの補助金ですけれども、こちら大阪市が直営でやっております事業です。イノベーション創出支援補助金と呼んでまして、開始からちょうど10年を超えたところですが、これまでに90件、20の大学に交付しまして、うち14件が実用化されております。そういう実績がございます。この補助金を、金額としては小額にはなるのですが、この補助金きっかけに国の科研費を受けられるようになったりとか、事業として成長した、こういった話もいただいておりますので、シーズの事業化には一定貢献しております。

その他の取組としまして下の段です。関西地域では、内閣府のバイオ戦略を受けたコミュニティを作る。これはB、i、o、c、k、B i o c kと呼んでおるのですが、こういうプラットフォームの取組も進んでいるところでございます。

最後15ページ、こちらメインになるのですが、前回いただいた御指摘も踏まえまして、これJETROの協力も得て、京阪神のスタートアップの課題とか、ニーズ把握、この調査を進めております。こちらについては、また次回の評議会で結果を詳しく御報告できればと考えております。

下の段が、最近の大阪の課題で代表的なものをまとめております。これは本当に人それぞれ、これが課題だと感じていることはたくさんあると思うのですが、やはり代表的なものとしては、ここに書いたようなものになるのかなと考えております。一言で言いますと人口規模とか、大規模や大学等の集積、せつかくのリソースです。これがスタートアップの創出とか、成長と必ずしも結びついていないということで、具体的にはVCやエンジェル投資家の不足とか、スタートアップの経営人材などになる人の不足、それからやっぱり海外志向です。海外志向のスタートアップが少ないこと、それから国内外への魅力の発信、この力が弱いと、我々もこれらの課題の解決に少しでもつながるように、右側のこの太線、太字の克服策も含めていろいろ取り組んでいるところですが、こうした点についても、後ほど委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。

議題1の説明については以上になります。よろしく願いいたします。

○北岡委員長 御説明ありがとうございました。

では、今から委員の皆様、前回の評議会の意見、委員の意見を踏まえて令和3年度の主な取組について、事務局から説明がありましたので、それに関しまして、御意見や御質問などがありましたら意見交換をしたいと思っております。いかがでしょうか。

では、スタートとしては岡さん、お願いできますでしょうか。

○岡委員 ありがとうございます。どれから話したらいいですか。まずは。

○北岡委員長 まず質問から受けましょうか。何か質問ありますか。確認事項とか、委員の方々。

○岡委員 今の中で一番気になったのは大学連携のこと、今されていると言われてはいたけど、今いろんな形で大学連携をする動きがあると思うのですが、その辺どんな流れがあるのかも含めて簡単に整理してお伝えしていただければ助かります。

○北岡委員長 多分、今のお話はK S I IやK S A Cが動いていますという御報告だったと思うのですが、その中で、産業局さんがどういうところで今動き出しているかとか、大阪市、大阪府がどう動いているかという御質問だったと思いますけど、いかがでしょうか。

○大阪産業局（中村部長） 大阪産業局の中村でございます。私から回答させていただきます。

先ほど大阪市の田原課長代理より御説明がございましたK S A C、K S I Iとの事業連携など行っておりまして、特にこのK S A Cというものに関しましては、大阪産業局も事務局をさせていただきながら、京阪神の大学また産業界、金融機関様、自治体様と御連携させていただいて大学発の研究シーズを社会実装、事業化していくところを具体的に取り組ませていただいております。K S A Cの略というのはもともと京阪神スタートアップアカデミア・コアリションという名称のプラットフォームとしてなっております。

お話の中にもありました大阪産業局の中では、この大阪イノベーションハブにK S A Cの、J S Tの予算を活用しながら起業環境を整備させていただいております。学生さんであったり研究者の方々が御自身でつくられたプロトタイプであったりとか、ビジネスのPRを外部に発信できるような動画の撮影であったりとか、制作ができる機材をそろえさせていただきました。そちらをオープンにしまして、皆さんこちらに集っていただきながら、今回動画の制作とかPRをしていただこうと思っております。

また、大阪産業局だけでなく、京都大学、大阪大学、神戸大学、大阪工業大学にもそういった起業環境を整備しておりまして、プロトタイプをつくれるような3Dプリンターの設置であったりとか、起業を目指される方々が集えるような場を各拠点に設けておりまして、その拠点が大学の学生さんだけではなくて、ほかの大学の学生さんも活用できるようなオープン化をしております。

あと、大学関係の取組に関しましては、大阪産業局ではO I H大学発スタートアップ創出

プロジェクトというものを今年度よりスタートしております。約3年間のプログラムになりますけども、最終的には大学発のスタートアップを目指して今取り組んでおまして、この1年間は大阪府下の大学にヒアリングをかけて事業化を期待できるような研究シーズを出していただきました。約20件出ておまして、今後、この20件のシーズと経営人材候補となるような方々をマッチングしていく取組を次年度以降していこうと思っております。今の

○岡委員 ありがとうございます。

○大阪産業局（中村部長） よろしいでしょうか。

○岡委員 以前、大阪府と大阪市でスタートアップ支援されてた、5、6年前ですか。結構同じようなことを両方でされてて、我々メンターがすごく混乱した時期が一時ありましたので、今回また大学連携及び産学官連携ということで、いろんなことが動き出していると思うのですが、その辺の交通整理等、あと何か分かりやすい一覧表みたいなのをいただけましたら、我々メンター側といたしましても、またVC側といたしましても、支援協力しやすいと思いますので、御検討をお願いいたします。

○北岡委員長 では、まず1周回りたいと思うので、会場からフォーリーさんお願いします。

○フォーリー委員 これは聞こえてますか。大丈夫ですか。

まず、質問がありまして、先ほど大阪の課題の一つとして資金調達があるとおっしゃっていて、その中でパートナーとしてVCの方ですとか、金融機関が参画されたということが、評価できるとおっしゃっていたのですが、実際金融機関とか、VCがパートナーとして参画されたときに、こちらの取組とどういう関係性で投資活動を行っていくのでしょうか。

○大阪産業局（中村部長） 大阪産業局、中村から御回答させていただきます。

こちらのパートナーさんに関しましては、私どもから毎月定例で行っております、うめきたピッチというピッチイベントであったりとか、小規模、大規模にかかわらず各参画いただいている金融機関様、VC様に御案内させていただきまして、皆様に合ったスタートアップを御紹介させていただいている点と、個々にやはりスタートアップからの御相談がありますので、どうしてもこのVCさんをつないでほしいとか、御紹介してほしいというリクエストがあった際は、まず私どもから直接スタートアップと面談した上で、VCさんにも御相談をさせていただいて面談のセッティングをさせていただいております。

○フォーリー委員 ということは、マッチングの機能を果たしてらっしゃるということで

すよね。

○大阪産業局（中村部長） はい、マッチングはできるように取り組んでいるところです。

○フォーリー委員 個別の名前はこの場では申し上げにくいのですが、海外から大阪にシェアリングオフィスなり、そういったところを実際にオープンされたところにいらっしゃる方から直接聞いたのですが、やはり関西ですと、そちらはスタートアップに投資をして、そのスタートアップが海外展開をするところに、やはり彼らの一つメンターにしてもいろいろなメリットを生かせると思っているが、なかなか関西でそういったことを考えているスタートアップが少なく、投資先が見つからないということもありましたので、今後、VCの組織化ですとか、マッチングしていく上でのデータベースを作る上で、どういうVCが関西に既に進出しているのか、または進出したいと思っているのか等の情報があれば、よりマッチングの精度が上がるのではないかと思います。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） ありがとうございます。

まさにそうで、今回、資料で御紹介したパートナーも大手金融機関さんから、最近設立されたばかりのVCさんまでいろいろいらっしゃいます。OIHがやっているイベントとか、プログラムに参画していただく形で、そこに登壇してくるスタートアップ企業さんのピッチを見ていただいて、マッチングを案内するというのもあるのですが、やはりせっかく参画していただいたからには、これ良かったねと思ってもらって、さらに次の、ほかのそのお持ちのネットワークで、また新たな参画者につないでいただくというのも大事ですし、あと委員おっしゃったように、こういうスタートアップがいらっしゃいますって、できるだけ見える化した上で、それなら大阪も関西も面白いねということで、新しく参加したい人が出てくる。そういう相乗効果をできるだけ生み出していけるようにしたいなと思っております。ありがとうございます。

○北岡委員長 では、続きまして山本さん、お願いいたします。

○山本委員 よろしく申し上げます。御説明ありがとうございます。いろいろとこれまでのフィードバックも取り入れていただいて目標も順調ということですので素晴らしいなと思って、最初はお伺いさせていただいてました。

エコシステム作りという、それに必要なステークホルダーがしっかりエコシステムの中にいるというのが大切で、そこも大学や資金調達などのところに力を入れて底上げしていらっしゃるというのも効果出てくるんじゃないかと思って伺ってました。エコシステムというと、自律的にいずれは回っていかねばいけませんが、その中で必要なのって、その

中にいる人たちが自分たちでコミュニティをつくって、情報交換をして、その上からいろんなコミュニティとイベントするのはもちろん大切なんですけど、その後に、彼らが自分たちでネットワーキングをどんどんしていくというのも大切なんですけど、そういうものが起きているというような感じの広告みたいなものもあればと思ひまして、そういうのが起きるために何かの施策されているのであれば、伺いたいと思ひました。

例えば、こっちだとスラックみたいなのがあって、いろんなスタートアップの方とか、研究機関の方とかも含めて、こんなのありますか、こういうのやりたいんだけど誰か手伝ってくれないかみたいなのがよくあって、みんなそれぞれ個人的にもつながるところがあるんですけど、そういったコミュニティというか、大阪の中でのコミュニティみたいなものはどんな感じになっていますか。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） とにかく東京のようなところと比べたら全然規模が違うのですが、比較的東京に比べて大阪ってコミュニティがあるというか、例えば、まさに岡委員とかがされているJSSAなんてそうなんですけども、先輩が後輩を育てる仕組みとか、そういったことがあるんじゃないかと思ひます。

例えば、さっきの紹介、京阪神の連携のところでも紹介しましたKANSAI FUTURE SUMMITです。あれは本当に関西、京阪神のスタートアップ有志によるこの資金面も含めてかなり手作りで作り上げてくださっているイベントになって、ああいうところでも少しずつですけども、コミュニティというのは形成されていってると思ひます。

それからコロナ禍で、オンラインが中心になったことで、このイベント、プログラムに付随して、そこでオンライン上ではありますけれどもネットワーキングができたりとか、その後の交流何かチームづくり、プロジェクトづくりにつながる仕掛けがいろいろあったりとか、そういった環境を利用して、少しコミュニティが形成されていって、この2年間の間に先ほど紹介しましたHack Osakaも含めてですけども、大体大きなオンラインイベントだったら付随してコミュニティ形成はできていってんじゃないかなと思ひますが、個別具体的なところについては、例えばOIHの取組でそういうのがありましたら補足をいただけたらと思ひますが、中村さんどうでしょうか。

○山本委員 ありがとうございます。もう一点質問させていただいてもよろしいですか。

大学連携に出てきた大学なんですけど、この大学というのはどのようにして決まっているのですか。というのも、大学すごくたくさんあると思うのですが、例えば女子大学的な大学の名前がなかったり、グローバル化というのを見据えると、例えば立命館のアジア・パ

シフィック・ユニバーシティみたなところも入ってもいいのかなと思ったりしながら見てたんですけど、それで大学が15大学あるというところで、どのようにして選択されているのかなというのが気になったのでお伺いできればと思います。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 御質問ありがとうございます。

今回の資料で御紹介しましたK S I Iとか、K S A Cですね。まず、エリアは近畿2府4県、5県になっています。これも公募事業にそれに申請書を書いて採択されるものですので、当然幅広く周知はされております。その採択されたときにそのプログラムの中で実施できることとか、あるいは全体に対してこういう貢献もしてくださいねというのが、両方の情報をお伝えした上で、それならうち起業家教育やってるんでとか、産学官連携やってるんでやりますと、基本的には手を挙げてくださった、意思表示をしてくださった大学を構成委員としてやっております。それでいくとどうしても理系の学部のある大学が中心になってくる。あるいは文系だけれども、ソーシャルアントレプレナーの教育に力を入れておられるところとか、そういう組織的に起業家教育をやっておられるところとか、そういうところも入っておられます。委員御指摘のそうです。例えば立命館のアジア・パシフィック・ユニバーシティ、あれ大分県ですね。そこはエリアで入ってこなかったのですが、当然グローバル展開を考えておられる大学もあります。今回女子大については結果的にどこも参画はされなかったです。

○山本委員 ありがとうございます。

○北岡委員長 一巡あがりでしたが、今、岡さんから見て、先ほどの話ですけど、V C、金融機関、あと経営者、そういうものが関西に集まりつつあると実感されているかどうか、その辺肌感どうでしょうか。

○岡委員 そうですね。一時、僕が協会始めた6年前と比べたらすごく資金提供も多いですし、今、資金調達は東京、関西ともにしやすいと思います。また、O I Hさんとか、O S A Pさんとかで、東京のV Cを関西に連れてきていただいて、キャピタリストと壁打ちとか、投資面談もされているのですごく、5、6年前とは比べ物にならないくらい、やる気のあるスタートアップにとっては資金調達がしやすくなったかなと感じています。

○北岡委員長 一方で、逆に大学でK S A Cの案件を見ていると、やっぱり経営人材というか、経営人材という言葉でくくるのはあんまりよくないと思うのですが、自ら調達をするとか、自らグローバルネットワークをつくるという観点で見たときに、そこはやはり関西として非常に不足しているなという気がしていて、これ多分、鶏、卵の関係だと思うのですが、V C連れてきてもそういう意欲のある経営者がいないと、シーズがあってもなかなか

か投資ができないなというのが今、課題かなということで、この鶏、卵の関係をどっちから先行くかというのが、次の一步なのかなと感じているのですが、その辺の実感どうでしょうか。

○岡委員 そのとおりで、VCが出資する、特にシード・アーリーの場合は経営者に出資しますので、今先生言われたように幾ら技術がすばらしくても、すばらしい時代があってもそれをマネタイズ、ビジネスモデル化で組織のチームビルディングも含めて、組織開発でちゃんとスケールするような事業開発、それをできる、やる気のある経営者がまだまだ少ないのは確かです。

○北岡委員長 その人集めるという意味で何か大阪府、大阪市さんとしてはこういう手を打とうかなとか、こういう手を打たなきゃいけないという認識は、大阪市さんとしてどうでしょうか。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） とにかく東京や海外から人を集める、お金も集めてくるのもそうですし、何よりちゃんとここはええところやと認識してもらった上で、振り向いてもらわないとまずいけないのかなと思って、その辺は、実は後ほど議題2のところ、来年度こんなことをやりますという、その場面では御紹介はしようと思っているのですけども。

国内外からまず認知度を高めて、これだったら大阪に出してもいいかなとか、そういう人材もお金も集めてくるような取組、これは後ほど議題2のほうです。来年度の取組でもお話ししようと思っているのですけども、例えばカーボンニュートラル等のシーズの支援事業であったり、あるいは海外の調査機関に対して、この大阪Startup Genomeとか、ああいうところにも参画するということで認知度を高めていくとか、自治体としてはできるだけ予算も取る努力をしながら、そういうところは頑張っているところであります。

○北岡委員長 では2順目、違う観点でもし御意見とか、御質問ありましたら、いかがでしょうか。

では、フォーリー委員からお願いしたいと思います。

○フォーリー委員 御説明を聞いて印象としては、本当に形がつけられてきたなというところは、非常に評価できるかなと実は思いました。まだまだ今からなのでしょうけども、こういった取組が京阪神連携も含めてできていくと、何らかの形になってくれればいいなと思った一方で、こちらどうなのかなと思ったのが、スタートアップの世界ってものすごくわくわくして、ものすごく苦しいこともあるけども、新しいものを創出していくというエネルギー

一の渦なので、ややもするとそこだけ見てしまいがちになるのかなと、この和の中に、渦の中にいる人たちはめちゃくちゃ楽しいんですけど、逆にこの渦の外にいる人たちには全く関係ないというところが起こり得ないのかな、そのときに海外の発信はもちろん大事なのですが、一般、私は例えば学生ピッチとか行って、そこに参加している若い経営者の卵、物すごく楽しそうにしているんですけど、ただ今、非常に二極化が進んでいるとも言いますよね。そうなったときにやはり日本というか、関西全体を底上げしていくときに、こういうスタートアップの力をそれこそこにして、関西全体を浮揚させるような取組というのは、何かほかにもしあれば考えていくことも一つメリットがあるのではないかと感じました。

例えば、もっと一般的な普通のメディアに、成功事例の若い経営者なり、学生起業家等もう少しPRという形で出していくとか、そんな形で社会全体に対して、やはりイノベーションを起こしていくことに対する啓蒙活動、こういったことこそ、こういった組織的な京阪神全体としての取組としてやっても意義のあることではないかと感想的なことですけど、思いました。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） ありがとうございます。

委員がまさにおっしゃるとおりで、ここ数年イノベーションというのは一部の限られた人、技術を持った限られた人のためだけのものではない、なくなってきているというのは感じております。何より政府がイノベーション、あるいはスタートアップ創出、支援というのに積極的になってきてくれてますし、あとは当然スタートアップ企業以外の既存の企業です。そういうところでもイノベーションの重要性というのがありますし、例えば自治体においても、我々は今このスタートアップのサポートをする部署にありますけれども、それ以外のところでもイノベーションって大事ですとか、あとはスタートアップが中長期的に見て、この地域の経済の活性化のためには不可欠です。大分そういう認識というの浸透してきてますし、機運は上がってきているかと思えます。なので我々も、今後はこれまでだったらあんまりやらないところにもこれの意義です。というをどんどん伝えていきながら、うまく協力者をつくって巻き込みながらPRというのをしていきたいなど、それは決してお金をかけなくてもできることもあると思いますので、そこは自治体として、自治体が持つネットワークも使いながら進めていきたいと思えます。

○北岡委員長 今の質問に対して私も思っているのは、大学の中でいると、やはりこういった大企業とかに入るよりは、スタートアップに行きたいという学生の割合が、この関西でも幾分増えてきてるなという印象はあるんですけど、でも、やはりまだまだ大企業のほうが、

実は安心感があると社会全体が思っていて、ただ、今日の日経新聞なんか見ていると、省庁のいわゆる退職者を減らすためにマネジメント研修入れるということで、入れたところで多分早々おさまるものではないと思うのですが、やはり公務員でずっといるよりはスタートアップに行って何かトライしてみたりとか、コンサルファームに行って、そこから企業に入っていくというのが、多分関東のほうがやはりそのムーブメントとしては大きくなりつつあるのかなと思うのですよね。

それは多分、ある程度安心感が社会の中に定着しつつあって、リスクばかりじゃなくてそっちも面白い、今フォーリーさんが言ったように面白いし、でも、そっちのほうがひょっとしたらもっと楽しいことがあるんじゃないかというのがあって、それは関東特有の集積度というか、いっぱいそういうスタートアップがあるから、少々何かあってもまたチャンスがあるんじゃないかという雰囲気があると思うのですが、やはり関西の大きさと人口密度からしたらある程度意図的に集積度を上げていかないと、そういう安心感というのは出てこないのかなという中で、このうめきた2期のコンセプトとか、大阪市、神戸、京都との関係で、どうそういうものを集積させていくかって非常に重要だと思うのですが、その辺、先ほどうめきたに関するようにキーワードですよとか、万博がキーワードですよというお話があったのですが、具体的にそこに向かって集積させていく何か取組とか、考え方というのは何かございますでしょうか。

うめきた2期がそうあるように、大阪市としても積極的に、そこに対して民間だけじゃなくて、市もやはりもう少しうめきた2期ってこうあるべきじゃないのというのは何かコンセプトを出してもいいのかなと思いますけど、その辺いかがですか。

○大阪市経済戦略局（川村部長） ありがとうございます。川村です。

うめきた2期に関しましては、まさにそのうめきた2期というのがグリーンとイノベーションの融合拠点というテーマで、今まさにいろいろと民間と自治体とが一緒になって事業者等を巻き込んで、事業者が主体のどうしても民間事業にはなるのですが、そこにどういった形で。

今、北岡委員からお話ございましたうめきた2期に関しましては、2024年の先行まちびらきに向けまして、グリーンとイノベーションの融合拠点をどうつくっていくかということ、まさに議論をしておるところでございまして、まさに、その緑を核としながらもイノベーションをどうつないでいくかの仕掛けをどうしていくかということ、今まさに組織も含めまして、どういうふうやっていくか。我々としてはそういった組織ができる。仕組み

ができる中で、まさにうめきた1期にあります、今このOIHとの役割分担といいますか、有機的に連携することによって、このうめきた全体がそういったムーブメントを起こせるような仕組み、仕掛けにならないかなということ、そこを議論する場合に我々大阪市も、大阪府さんと一緒になって議論に参画しているところですので、ぜひそこは今おっしゃられたような、何かうめきたでそういったムーブメント起こってるなということ、起こせるような取組をまさに進めているところでございます。

○北岡委員長　僕もこの間久しぶりに渋谷に行ったときに、渋谷の若者の元気度というのはある意味びっくりしたんですけど、意図的に若い人たちが昼間でも何か新しいことをしたいときに集まれる場所というのが、多分関西には実はあんまりなくて、大阪大学であれば吹田キャンパスと、豊中キャンパスからなかなか離れてくれないというのが実態で、それは研究という意味ではむしろいいんですけど、やはりそういう意味では都会に出てくるとか、社会の課題を見るというのは、その研究成果を生かす意味でも非常に重要だと思うのです。だから、それが週末だけ買い物に来るというのではなくて、岡さんみたいな人たちに会えるとか、誰々に、山本さんに会えるとか、フォーリーさんに会えるとか、それを意図的にしていかないと、多分若者はずっと山のところでへばりついて、ジャージ姿で研究をするみたいな話になっちゃうのはすごく関西としてはもったいないというのは、私自身すごい感じます。

話題の出ました山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員　箕西に張りついていましたという過去を思い出してたのですが、

でも、そのグローバル化に向けてということと、コミュニティをつくって、スタートアップコミュニティ、イノベーションコミュニティをつくっていくのはすごく大切だなと思っていて、その大阪と私のいるベルリンの人口密度とかを比べたりすると、ベルリンだと360万人とかだったりするのですが、密度は高いのです。このイノベーション密度というか、なので、そこで生まれてくるダイナミックスの違いというのはすごくあるなというのは感じて、どうしてそういう人を増やしていけるかというのは大きな課題だなと思いながら伺っていました。

フォーリー委員がおっしゃったように、じゃあわくわくするまちづくりじゃないですけど、わくわく感ってイノベーションにとっては必要で、周りの人をどう巻き込んでいくかというのも確かに必要なんですけど、まずやっている人が物すごくわくわくしているのは一つ必要で、周りを巻き込むときのダイアログの作り方として、参考になるかなと思って少し考えて

いたのが、ベルリンに大手電力エネルギー会社のバッテンフォールというところがあるのですけども、彼らが最近、もうちょっとでオープンするうめきた2期みたいな、そんなすばらしい大きな建物ではないのですが、本社ビルをベルリンの南駅というところですが、MaaSでいろいろつながっていて、スマートシティのような感じになりつつあるところに建てています。そのビル自体はオランダの会社で、とてもカーボンニュートラルにフォーカスしているところを使って建てていて、建物だけで従来のコンクリートのビルから80%ぐらいCO₂ニュートラルに持っていけるところですけど、プラス彼らはスタートアップと一緒にオープンイノベーションをしたと。そのときにスタートアップとのオープンイノベーションとか協業という、例えばそのビルのマネジメントシステムみたいなのを一緒に協業してやっていくみたいなものもあるんですけど、それって実はビルの中で起こっていることで、市民とのダイアログには、記事に書かれるかもしれないけどあんまり見えないのです。彼らにとって大切だったのは、見える化できるスタートアップを使うところですよ。

見える化すると、そこに来て働く人たちもカーボンニュートラルやイノベーションに対して、自分たちの意識も上がって行って、そこに来るお客さんもそれが分かってくいき、それがどんどん伝播していくというので、PRとして書くというのはもちろん大切ですけど、町自体がそれが話題になって話せるような環境をつくっていき、そこにスタートアップが関わっているんだというのをどんどん見せる化、見える化していくと、コミュニティも広がりやすいのかな、周りも巻き込めるようになってくるのかなと思いました。

○北岡委員長 山本委員、いいコメントをありがとうございます。

やはり、何かKPIとか上げちゃうとすぐスタートアップの数とか、調達額となるのですが、多分本当そのわくわく度とか、若者の活性度とか、市民からの理解とか、それが実は本当のKPIで、それを直接図れないから数字的にしていると思うのですが、確かにその辺がもう少し若い人たちや市民全員を巻き込みながら、何となくイノベーションというものが楽しいなというのが見えてくると、もっと活性化するという一つのベルリンの事例なのかなと思うので、その辺やはりうめきたにも要素として、本当に参加している人がわくわくしているかどうかをモニタリングするとか、そんなんがあったらいいのかもしれないです。

続いて、岡委員、いかがですか。追加で何か質問ありますか。

○岡委員 質問ではないんですけど、数字で見る成果のところでは5億円以上のスタートアップが59社、今でしたら多分70社ぐらいになってるかもしれないのですが、これはすごくいいことでもあるし、さっきフォーリーさん言ったように5億以上調達したスタートア

ップって、わくわくして社内もすごく盛り上がっているとは思いますが。

ただ、実は今、東京のスタートアップ村というのか、その辺の連中と最近よく話に出るのが、現状今、東京市場のマザーズの株価が暴落してまして、50%近く下落してるんです。ですから、スタートアップの資金調達のバリエーションに使う、マルチプルで使う株価も今かなり暴落してまして、この5億円以上調達したスタートアップ達が、その5億を溶かしていきますので、次の調達をするときにかなりバリュエーションが下がるんじゃないかなと、大分、今半分ぐらい、IT10抜けたら、半分から3分の1ぐらいまでバリュエーションが下がってまして、次の調達がむちゃくちゃしんどいです。

さらに、多分これ5億円以上調達したスタートアップ、信託型のストックオプションもやっていると思うのですが、今上場して信託型ストックオプションやった会社の多くはノットアウト兆候といいまして、ある株価まで下がっちゃうとストックオプションが消滅するという情報もありまして、その信託型ストックオプションの中に、それで今大変なことになっている話もよく聞きますので、5億円以上スタートアップ調達してよかったのですが、この半年で環境が激変してますので、本当にこの調達した5億円を大事に使うように、メンターがしっかりつきやあいんですけれども、そこを心配するのと、今後の調達がすごく大変になりそうな気配を感じますので、その辺のサポートも我々も含めて関係者のほうでもらいたいなと思います。

最後にIPOするときに、証券会社がIPOディスカウントというの一時話題になりましたけど、それが先週、先々週だとIPOディスカウントが50%とか、一昔前じゃ考えられないぐらい投資家保護という観点かもしれませんが、証券会社さんもかなりリスクヘッジもされているみたいで、スタートアップからすれば非常に大変な話になる場合もありますので、環境が本当にこの半年で大きく変わったなというのを感じています。

僕からは以上です。

○北岡委員長 一つ目の議題に関してはそろそろ時間になりつつありますが、最後何か質問とか、御意見ございますか、また、改めて最後にもし追加であればお受けしたいと思いますので、まず一つ目の議題、これで終わりたいと思います。

ありがとうございました。

では、続きまして議題2として、来年度、令和4年度の取組方針について、事務局より御説明いただきたいと思います。

その後、今と同じように皆様方から御意見、御感想をいただきたいと思います。それでは

よろしく願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 大阪市の田原です。

続きまして、議題2、令和4年度の取組方針について、同じ資料に沿って御説明いたします。

16ページです。今、委員の皆様から御意見いただく中で、少しその御回答の中で触れたことも出てくるのですけれども、先ほど御紹介しました課題の克服につなげることを意図したものを多く書いておりますが、主にこの4点です。御紹介いたします。

まず一つ目が、脱炭素など今後の成長が期待される分野での大学発シーズの産業化というものです。こちら次のページで詳細を御説明いたします。

2つ目が、国内外での情報発信の強化です。アメリカのスタートアップ調査でStartup Genomeに参画しまして、本格的に大阪を発信していきます。今回は大阪としての参画になるのですけれども、世界での認知度の向上を考えますと、行く行くはやはり関西のブランドでの発信が必須であるかと考えております。

また、情報発信という意味でいきますと、大阪イノベーションハブ、OIHのウェブサイトです。この間使っておったのですけれども、こちらを刷新しまして総合的な大阪のスタートアップ支援というテーマのポータルサイトにつくり替えております。こちらはせっかくですので、この画面を活用して、リニューアルしましたこのポータルサイトを少し御覧いただきたいと思います。

これがトップページですけれども、御覧になる方の属性です。今、企業準備中というのが出ておりますけれども、学生ですとか、例えば企業準備中だったら、こういうことについて知りたいですとか、幾つか選択肢を御用意しまして、まだ、これからどんどん情報は充実させて細分化させていくのですけれども、できるだけその人の知りたい情報にダイレクトに御案内できるような形にしております。これまで、やはりイベントとか、プログラムが中心で、なかなかのボリュームがあって、本当に一番知りたいところにたどり着きにくかったのですけれども、これによってできるだけスムーズにニーズに対応できる仕掛けにしております。

それから施設としてのOIHの紹介、先ほどのプレーヤーとか、パートナーになりたい人、あるいはイベントプログラムに参加したい人、あるいはイベントプログラムを作りたい、共催したい人のほか、大阪のエコシステムの情報、大阪ってどうなってるの、どんなスタートアップがいて、どんなサービスメニューがあって、あるいはどんな人と出会えるの、そういう人たちにできるだけお答えできるようなサイトにしつつあります。また、皆様お時間ある

ときに一度これを御覧いただけたらと思います。ありがとうございます。

続きまして、3つ目ですけれどもグローバル展開支援にも注力いたします。拠点都市に対する国の支援メニュー、先ほど内閣府からJETROが運営している海外のアクセラレーションプログラムを御紹介しましたがけれども、来年度は京阪神がより、その地域のニーズとか、特性に合った形で、独自に運用できる予算を活用して、具体的には関西の強みであるライフサイエンスの分野で、スタートアップの成長を支援することもやってまいります。それからオンラインでいろいろなところとつながるようになったと、この利点を生かしまして、これまで接点のなかった国とか、地域とも連携を進めてまいります。

最後は、大阪、関西に集積するシーズ産業、人材のリソースをより一層生かしていきます。先ほどせっかくいろいろなものが集まっているのになかなか生かしきれてない、もったいないというお話はしましたけれども、今後は大阪産業局を司令塔にして、大阪コンソーシアム、それから先ほど御紹介しました京阪神のプラットフォームKSACです。これらを中心とした支援プラットフォームの一層の強化に取り組んでいきます。

それから、次の17ページが、先ほど一つ目でお伝えしました。カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業、こちらは大阪市が令和4年度の予算として要求している。今年度中には何とか承認されればいいなと思っている分なんですけれども、等というのはカーボンニュートラル以外にバイオとか、幾つかの分野を想定しているのですけれども、大阪や関西の大学ではこういったカーボンニュートラルなどの新技術の研究が盛んに行われています。また、2025年には万博も開催されます。こうした地域の強みを生かしまして大学で研究されている新技術を活用するビジネスにチャレンジするようなスタートアップ、これらに様々な支援を行いまして、例えば万博で試作品の出展とか、実証実験に導くと、こういったことを支援いたします。万博に集まる多くの人や企業が関心を持ってイノベーションの創出につながることを期待しています。将来的には、こういった取組で生まれた事業が将来のユニコーンにつながることも期待しております。

当面このような形で取組を進めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○北岡委員長　　ありがとうございました。

4つの大きな柱ということで御説明いただきましたので、順番関係なく、質問及びコメント、御感想いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○岡委員　　いいですか。

○北岡委員長　　お願いします。

○岡委員　　カーボンニュートラルで予算3,000万と書かれてましたかね。スライド。これはどんなことに使われるのでしょうか。

○大阪産業局（中村部長）　　大阪産業局の中村でございます。私から、事業、今予定している中身について御説明させていただきます。

今回、大学の研究シーズのところとプラス、既にスタートアップとして企業されている方々に向けたプログラムを予定しております。既に起業されているスタートアップの方々に向けましては、最終、万博に向けた出展というところを目指していく中でハンズオン支援を一つしていこうと思っております。ハンズオン支援に関するコーディネーター謝金などを今検討しているところです。大学の研究シーズに対しては、社会実装スタートアップとしても起用していくところをハンズオン支援していける枠組みであったりとか、勉強会とか、ワークショップも企画運営を準備しております。それぞれを並行して2本立てで今進めていけるように準備しているところです。

○岡委員　　ということは、ここに書かれているロードマップをするための費用が3,000万という意味ですか。

○大阪産業局（中村部長）　　そうです。スタートアップに向けて。

○岡委員　　出資するとか、融資するという意味じゃないですね。

○大阪産業局（中村部長）　　はい、違います。

○岡委員　　なるほど、例えば関西のカーボンニュートラルやっているスタートアップを、こちらに紹介したらハンズオンしてもらえるという意味で、正しいのでしょうか。

○大阪産業局（中村部長）　　ありがとうございます。そうです。ただし、カーボンニュートラルに関するビジネスに取り組みされていて、かつ将来2025年に向けてビジネスより成長させていきたいというところもスタートアップさんいらっしゃいましたら、ぜひ御紹介いただければありがたいです。よろしく願いいたします。

○岡委員　　これ窓口ができるのはいつ頃ですか。

○大阪産業局（中村部長）　　今まさしく、大阪市さんの予算が最終とおりましたら、4月から実施できるように今準備しているところですので、できるだけ4月中には、何か窓口的にオープンできるように頑張っていきたいです。

○岡委員　　なるほど、ぜひお願いいたします。

○大阪産業局（中村部長）　　ありがとうございます。

○岡委員 ありがとうございます。

○北岡委員長 今回の御回答に対してアドバイスというか、意見としては、やっぱりお金があるので集まるというのもあると思うのですが、カーボンニュートラル施策を行うにおいてどういうコーディネーターとか、メンターに会えるのかというのが見えないと、何となくお金だけもらいに来る人が集まっちゃうのかなという気がしていて、厳しさも必要だし、かつそういったカーボンニュートラルというのに対して単にCO₂削減というだけじゃなくて、今様々な定義がされつつあるわけです。この間も東京のアスタミューゼの永井社長と話しているときも、相当彼なりにはカーボンニュートラルの定義を拡張させて、世界的に見てどうカーボンニュートラルを捉えるかということも考えられているので、やはり単純なCO₂削減ではなくて、もう少し広義で考えられて、そういうアドバイスができる人材を見える化するということも必要なかと思いました。

山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 ありがとうございます。

幾つか、それぞれに関して少しずつ質問があるのですが、海外、国内外での情報発信強化というところで、ウェブサイトがリニューアルしたりというのもすごい良いなと思いついて、海外から見ると大阪であったり、町のエコシステムを理解するためにはどんなスタートアップがどれぐらいのステージ、どれぐらいで、どんなVCがいるのかなというのが見えるといいと思うのですが、そのために多くの町とかは、結構データベース自分たちで持っているところもありますし、大手のデータベースの中にしっかりデータが入っているところがあるのですが、Startup Genomeはデータベースというよりは、レポートみたいな形なのかなと思ったのですが、データベースの中に大阪のスタートアップ・エコシステムが見えるようにするためのデータの充実性みたいなところは、どのようにお考えかなというのが一つ目の質問です。

○大阪産業局（中村部長） ありがとうございます。大阪産業局の中村です。

おっしゃっているように確かにレポートが結構中心になってきますけれども、現在、ゲノム社に、大阪に関わるスタートアップのデータを、今こちらで取りまとめを行いまして、掲載いただけるように連携を今進めています。特にテーマとしましてはライフサイエンスであったりとか、バイオとか、ヘルスケアに関するところを中心に、こちらでピックアップを行ってデータを提供しています。1回限りのものではなくて継続して、こちらで上がってくる情報をどんどんゲノム社に提供していこうと考えている次第です。

○北岡委員長　私も大学側から官民ファンドの関係で阪大、京大でかなりのベンチャーも出てますし、阪大、京大で、大体今400社ぐらい把握しているのですが、今、山本委員がおっしゃったようにポートフォリオと、今どういうステージで調達をしようとしているかってすごく必要かと思っていて、単に会社がありますよじゃなくて、シリーズAなのか、Bなのか、イグジットを目指してデータ投資を求めているのかってのが見えると、金融機関やVCも非常に見やすくなるんじゃないかということで、その辺は産業局の方々とも議論していますので、ぜひ、そういうのが見える化できたらいいなと私も願っているところです。

続いて、質問どうぞ。

○山本委員　ありがとうございます。

次は、そのグローバル展開支援というところで、ライフサイエンススタートアップというのもあったと思うのですが、ここはどちらかと言えばアジア太平洋という地域とあったのですが、欧州も結構コミュニティ強いところもあったりして、クラスターができていところもあるので、もしこれ地域が絞られてないのであれば、そういった産業クラスターみたいなところと、どんどんつながっていかれるのは良いのではないかと思います。それは意見という感じです。

あとはカーボンニュートラルに対してですけど、この予算的なところ、これは国内のスタートアップを、大学発のスタートアップに対してサポートするというところで、インバウンドで海外から来るようなスタートアップに関してはどういうサポートがあるのかなと思いました。結構たくさんカーボンニュートラルのスタートアップ、欧州とか多いので何か連携できることがあると面白いかなというのと、あとは万博などで彼らが大阪に行ったよという話が周りに出てくると、それ自体が今度、大阪が世界に発信できるきっかけになるのではないかなと思ったので質問です。

○北岡委員長　今、2点御質問いただきましたけど、いかがでしょうか。

○大阪産業局（中村部長）　ありがとうございます。

カーボンニュートラルの事業に関しましては、対象としているのは関西、日本国内のスタートアップを対象としております。

今御質問いただきました、やはり海外のスタートアップさんからも、ときより万博にどうやったら出れるんだとか、大阪に行ってみたいというお声もいただき出してまして、単独で海外スタートアップが万博に出展するってなかなか難しいかもしれないですけども、その万博、アフター万博、プレ万博も踏まえて、それぞれの時期に、例えば大手企業様との連携で

あつたりとか、事業者と一緒に協業してプロジェクトを進めることも可能かと考えておりました、私ども大阪産業局のほうで、また別の事業になりますけども、やはり海外のスタートアップを誘致していく取組も次年度以降強化していきますので、そのあたりで、特に海外スタートアップと連携を考えている在阪企業様とマッチングの企画などをつくっていかうと考えている次第です。

○北岡委員長 欧州との連携については。

○大阪産業局（中村部長） もちろんヨーロッパも対象としておりました、特にエネルギー関係と環境とか、エコに関してヨーロッパのスタートアップのほうが強いのじゃないかという印象も受けておりますので、やはりここあたりは各プロジェクトのテーマごとに連携をしていきたいなと考えております。

○山本委員 ありがとうございます。

○北岡委員長 では、フォーリー委員、お願いします。

○フォーリー委員 いろんな質問が出たのですが、最初のカーボンニュートラルからライフサイエンス関連スタートアップのアジア展開支援まで具体的に書かれていて分かりやすかったのですが、次の海外の政府機関との連携強化というのが急にばくっとして、これの連携強化をして何をされようとしているのか、次もですけども、産学官のリソースを結集、もしこれが今年度もやっていることをそのまま強化していきますということであつたら、その御説明をまずはお願いできないでしょうか。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 大阪市の田原です。

海外の政府機関等との連携強化というのは、これ実はあえてばくっとしてまして、上の2つほど具体的なものではないのですが自治体として、大阪市として、これまでそういう個別のスタートアップ企業さんではなくて、どっちかといつたら海外の政府機関とか、自治体とか、あるいは支援機関とか、そういったとことつながる機会というのはたくさんありました。特に姉妹都市とか、ビジネスパートナー都市とか、そういう公式に何らかの協定を持っているとことというのは、その交流の中でイノベーションをテーマにしてとか、交流しましょうということがあつたのですが、オンラインでいろんなことができるようになったおかげで、なかなか実際にその現地と人の行き来とか、そういうのがなくてもいろんなことができるようになったと、それをきっかけに幾つかの海外の政府系機関の方々からできることからつながりましょうというお声をいただいております。

ただ、やみくもに何か情報提供とか、イベントとかやるんじゃないで、それぞれ全然お互

い認知度とかが違いますので、大阪は大企業の存在とか、大学の存在というのはかなり知っていただいているけれども、その国のことは全然知らないとか、あるいは大阪のスタートアップではなくて、その国のスタートアップをこっちに売り込みたいのだとか、いろんなパターンがありますので、できるだけそのニーズを満たすような、お互いウィン・ウィンになるような関係で、例えばまず大企業とスタートアップのマッチングを意図したようなピッチイベントをやりましょうとか、そういったことが今、2、3 予定されておりますので、一般化した形で書かせていただいております。これ自治体が率先してできることかなと思っておりますので書いております。

それから、もう一つの産学官のリソースを結集、これは議題1で御説明したことを踏まえたものですが、この拠点都市への国からの支援、あるいはそれをきっかけに京阪神がつながったことでいろんなことが進み出しています。進み出してますけれども、まさに先ほど委員から御指摘のあったように、なかなかまだ不十分であったり、もうちょっとここを知りたいとか、これが分かればもっと人が集まってくるのにといいことはまだできていないので、そこはより効果の出る形で、このリソースというか、アイデアです。知恵やアイデアも結集させながらやっていきたいと、そういうことを書いております。

○フォーリー委員　ありがとうございます。

特に海外の政府機関の話で、御参考になるか分からないのですが、関西フューチャーサミットをしたときに、たまたま御縁があって、そのときに在阪の総領事や領事の方とお話をするときに、全く彼らにその情報が行ってなく、関西にもこういうスタートアップの空気があるんだということを知りたい、2年、3年前だったんです。ただ在阪の領事館というと、やはり日本国内の情報を採るといのがメインになるので、そこからどうやって今、田原さんおっしゃったように姉妹都市でのビジネスピッチイベントの交流だとか、具体的な内容とか、あともう一つの向こうのMBAプログラムとか、それから大学も、実は日本でのそういうビジネス交流とかがあるけど、どこに来たらいいか分からないとか、それもかなりアメリカとかでも、それからアジアでもスタートアップのプログラムってものすごく充実してるじゃないですか。そういったところがせつかく海外の政府機関との連携強化されるのであれば、そこから情報を取って、何か在阪の学生さんたちに何かメリットのあるような交流プログラムができるのではないかなと、アイデアベースですけども思いました。

あと、岡さんがさっきおっしゃったこと私も聞いてまして、今年すごく投資環境冷えるというところで、ましてやカーボンニュートラルとか、ライフサイエンスって物すごく大きな

投資が必要な、そういったビジネスになってきますので、そこを支援するという意味合いで、やはりその投資が逆に出ていくのかというところは一つの検討要項かと思います。

○北岡委員長　今聞いてて連携強化って確かに簡単に書くのですが、僕も思うのは、例えば姉妹都市とかいろいろあると思うのです。具体的にその都市と何をするのかというのは、個々にある程度持つといたほうがいいんだろうなと思っていて、よくあるようにシリコンバレーとか、イスラエルとか、視察団体がいっぱいこの5年間で行ったと思うのですが、だから、それで結果どうなったのというのに対してはほとんど分析されてなくて、やっぱり最近シリコンバレーの方々とか、向こうの現地の方と話しすると、向こうの投資環境というのは岡さん御存じのように、やはりこの会社を育てようと思ったら一挙にお金の流れが決まっちゃうわけです。だから、いい技術を持っていったところで、結果的にそこで投資合戦に負けてしまうと勝てないというのが、特にバイオ系とか、情報系って多分そういう環境下にあると思うのです。その中で、この政府系との連携強化によって結局何を打破しようとするのかというのが、単にフォーリーさんがおっしゃったように学生さんとの交流という感じで、例えば名古屋大学とシンガポールがやっているような、そういうことも一つの結果だし、投資環境をよくするのか、そこは決めとかなないと連携を強化しても、結局何を目標にするのかというのが不明確だと実を結ばないのかなと思います。

産官学連携も同じで、先ほど山本委員からどうやってこの大学選んだんですかという質問、結構鋭いなと思いながら聞いてたんですけど、集まったはいいというのがこの2年間だと思うのですが、残り3年間でそれでどうするのという話がまだ具体的じゃなくて、私も京都大学の先生方と、本当にこれ逆に集まったはいいけど何を目標にこれをやるのかについて、今まさに議論を始めてますし、僕、3月、4月で各大学回ろうと思ってて、理事長、学長、理事クラスと、それぞれお互い何を求めているのかをまず聞こうと思っているのですよね。それが見えてこないと、連携しましたと言って大体終わっちゃうのが多いので、そこもぜひ産業局さん中心に、各大学が何を求めているのかというのを分析しながら、目標をきっちり明確化しながら次のステップに行けたらいいなと思いました。

あと残り5分ばかりとなりましたけど、これは言っておきたいとか、全体、質問1も、第1の議案も含めてここは言っておきたいとか、言い残すことがありましたらお願いできればと思いますけど、岡さん、いかがでしょうか。

○岡委員　よろしいでしょうか。

○北岡委員長　お願いします。

○岡委員 今日いろいろお話、資料も頂きまして、大阪市のイノベーション促進とスタートアップ支援については本当すごくされているなど改めて実感いたしました。ありがとうございます。

今後、関西がこうやってイノベーションとか、スタートアップ、エコシステムも含めて伸ばしていくには、やっぱりその大学、産学官連携がマストかと思います。特にうちの協会とも産学官いろいろやっているのですが、冒頭にもお話ありましたように、やはり人、物、金、その中で人がどうしても不足しています。ただ、人はいい人いるのですが、流動化がすごく低くて関西の場合は、人の流動がしないので、ゾンビ化したスタートアップに人材がいたり、そういったいい人材が活躍する場がなかなか分からないとか、仕方なく東京行っちゃうとか、そういったことも今起こっていますので、ぜひその人材プラットフォーム、人材のネットワーク化、いろんな切り口はあるのですが、そういったことも今後進めていくことによって、もっと関西のスタートアップ、エコシステムが拡大するかと思いました。

僕からは以上です。

○北岡委員長 山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 ありがとうございます。

今回本当に見やすい資料をありがとうございました。

私も最初にお話で出ていた経営人材というか、人材をどうするかみたいなどころってすごく大切だなと思うのですが、その大学発でエンジニアからいっちゃってアイデアはあるけどどう形にしていかが分からないといったときに、こっちだとそのテックファウンダーズというアクセラレータがあって、コーファウンダーを探そうという感じのアクセラレータです。そこに入る人たちは、そのテックファウンダーズのチームが選んで、アイデアを持っている人、技術力がある人とか、何となくバランスを見ながら1回40人ぐらいでスタートするのですが、そういったところに産業界とか、いろんなところから力のある人でやりたいという人が入ってらっしゃって、実際にチームが生まれていって、チームがうまくできたらそこに投資が入る形になって、何回もそれ恒常的にどんどんやっているものなので、そういったのも一つの形になるのかなと。

○岡委員 それは大企業の社員さんも。

○山本委員そこはあんまり入ってないです。でも、日本の場合は入ってもいいんじゃないかと思いました。

○岡委員 確かにね。大企業も新規事業を今一生懸命やっていますから。

○山本委員　　そうです。パナソニックさんとかもいろいろやられてたりとかするので、会社の中でやっちゃうとなかなかしがらみがあるので、そういう感じで。

○岡委員　　取られちゃうもんな。

○山本委員　　というのもありかと思えます。あとはそういったアイデアをつくるためのハッカソンみたいな、本当につくれなくてもいいからやって失敗する。やっとうまくいかない、こうしたらうまくいったみたいなのを経験する場もたくさん必要なのかなと思っていて、トップでは花を咲かせるスタートアップ、大きくする数千万・・・、でもやっぱり千三つの世界というか、この状態だと万三つかもしれないですけど、お金も大切なのでとにかくそこができる。そこのところも何らかの形で、それこそなかなか民間ではサポートし切れない場所だと思うので、自治体のサポートも必要なのではないかと思いました。

○北岡委員長　　ありがとうございます。

フォーリー委員、お願いします。

○フォーリー委員　　ありがとうございました。

今の人材の話は本当にどんなレベル感の企業でも大事かと思ったので、テックファウンダーみたいなのを大阪でやっていただけるとすごいうれしいなと思いましたというのと、あと、どうなんでしょう。私の周りではエンジェル投資家はちょっと増えたような気がするんですけど、関西。ただ、それが表には出てきてなくて、知り合いの中だけで声かけたところに出しているイメージがあって、一部の人なのかもしれませんが、もうちょっとエンジェル投資家もいいスタートアップに巡り合える。そういうネットワークがあればもっとエンジェル投資家も出資意欲が湧くのではないかと思いますと、あとこの中で、うめきた2期と万博の話が出てたのですが、それでもスタートアップ側としては、どうやって参画したらいいかやっぱりよく分からないという声は非常に聞いていて、ただスタートアップとして何とか万博には参加したいので、個人的に何人かグループつくって合宿したりとか、そういうこともやってますが、もう少し具体的に、例えばOIHの何か試みの中で、ここに参加していたら、あるいは今度できる大阪府、市間でしょうか、そういったところには参画できるプログラムがあるみたいな、具体的な話があると非常にありがたいと思います。

あと、大阪全体として、やっぱり中小企業が大阪支えているじゃないですか。本当に大企業ってファーマとかもあるのですが、やっぱり中小企業スタートアップだけではなくて、中小企業からのイノベーションというところ、これどういうふうにして、例えばスタートアップと組み合わせできるのかとか、あと跡継ぎの話とか、いろいろ面白い話題は転がってい

るのですが、みんな点でやっている中を、例えば自治体がそれをどうやって線にして面にしていくのかというところは、今後の検討材料には入れていただけるとうれしいなど。例えばうちでも飲食のほうですけど、やっぱりスタートアップの技術とかを使って、例えばテイクアウトのモバイルオーダーをやってみたとか、そういう小さな中小企業でもそうやってスタートアップと組むことによって、今まではなし得なかったようなことが実現できるので、その意味合いなどマッチングというのがあると、中小企業側も非常に恩恵を受けるし、引いては大阪全体がイノベーション化できて、そのおばちゃんもイノベーションと言い出すような、そんな感じになると非常にいいなと思います。

○北岡委員長　各委員いろいろありがとうございました。私も今。

○岡委員　すみません。

○北岡委員長　どうぞ。

○岡委員　一つ、今フォーリーさん言ったことですけど、大阪万博とうめきた2期で、スタートアップブースをつくるという話をちらほら聞くのですが、これってどういう計画なのかと、もしそれがあれば受付とか、選考プロセスとか、どんな感じになるかというのを今オープンにすることってできるのでしょうか。

○北岡委員長　多分、今これ万博協会が動いてて、僕が聞いている限りでは春ぐらいからそういうのが徐々に出てくるという話で、今あまりオープンにはなってないと思います。

○岡委員　なるほど。

○北岡委員長　必要あれば万博協会に聞いて、また連絡させてもらいますけど。

○岡委員　そういうプランがあるか、ないかだけでも知りたかったのですが。

○北岡委員長　また、K S I I から岡さんに報告するように言っておきます。

○岡委員　万博とうめきた2期両方教えてください。お願いします。

○北岡委員長　また一回調べて。

○大阪産業局（中村部長）　中村です。ありがとうございます。

万博のあたりに関しては、恐らく何か共有できるものが出てくると思うのですが、今の現状、まだ正式にお伝えするもの等が定まってないのですが、また分かれば御報告させていただきます。

うめきた2期に関しましても、やはりいろいろ協会で議論されているところもありますので、こちらにつきましても情報整理次第補給させていただきます。

○フォーリー委員　私もください。

○大阪産業局（中村部長） はい、皆様に補給させていただきます。

○北岡委員長 お時間になりましたので、まだまだ御意見多数あると思いますけども、最後に私なりに、さっきフォーリーさんがおっしゃったところってすごく重要だと思っていて、実は昨日も大阪大学である建物の竣工式があつて、これ本当にいろんなエンジェルの投資、投資じゃなくて寄附と、あとそこに関わるベンチャーへの投資というのが動いて、非常にエコシステムを昨日も感じながら竣工式出たのですけども、やはりこのエンジェルなり、中小企業の社長なりがおっしゃるように、こういう大学発ベンチャーの技術とかに接する機会ってなかなかなくて、でも実際には携わってみるとうちでそれ販売しようかとか、うちこういう形で売らせてよという話は実はいっぱいあると思うのです。そういう意味での技術の連携とか、いわゆる商売の連携というのが本当はあるはずなんだけど、なかなか進んでいないのが実態で、多分大阪産業局としてはその両輪を持っておられるというのはすごい強みだと思うのです。だから、おっしゃるとおり大阪の中堅、中小企業を含め、エンジェルなりと、そういうものの連携というのはひょっとしたら大阪にとっては非常に強みになるかもしれないので、その辺もし可能であればこういう施策の中に反映していくのは非常に重要なこと、今日改めて、昨日の私どものイベント等含めていい御提案だと感じた次第です。

皆様方、御意見どうもありがとうございました。また、事務局で皆様方、委員からの意見というのは、各事業に反映していただくように進めていただけると期待しております。

それでは、本日の評議会は以上で終了となります。

連絡事項などにつきまして、事務局からお願いしたいと思います。

○大阪市経済戦略局（淵上課長代理） 委員の皆様、長時間にわたり御議論いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、最後にイノベーション担当部長川村から一言申し上げます。

○大阪市経済戦略局（川村部長） 経済戦略局の川村です。

本日は、委員の皆様方には様々な御意見を賜りましてありがとうございました。

先ほどの資料でも御説明をさせていただいておりますけれども、今年度から昨年度と違いまして、大阪市としてのイノベーション施策の進め方が大きく変わっておりまして、昨年度までは大阪市内で、委託事業という形で大阪市内でいろいろと企画したものを、実際に委託をして産業局で、O I Hで実施していただくという形でしたのが、今年度からは運営交付金という形で交付金事業となりまして、基本的には執行をO I Hで、産業局でやっていただいているという形になっております。ですので、8月にさせていただいたときには、どちらかとい

うと事業評価という視点でいろいろと御議論をいただいたかと思うのですけれども、今回からしつらえを変えまして、やはり大きい観点からいろいろと我々大阪市としてもどういった視点で、イノベーション施策を進めていったらいいのかという視点で御意見を伺いながら、実際に執行をしていただいている産業局と一緒にしてお話を聞かせていただいたというしつらえで、今回させていただきます。

その中で、今回改めて思いましたのが、後半で、令和4年度を取組ということで、大阪府で新たに進めるポイントとして大学発シーズの産業化というのが一つ、それと国内外での情報発信の強化、それとグローバル展開支援、それと最後に大阪コンソーシアムの組織力、京阪神連携の強化という、この4つの視点でこういった施策を、来年度、力を入れてやっていきたいということを御説明させていただいたのですが、前段でいろいろと委員の皆様方からいただいた問題意識、課題等についても、やはり我々が思っていることと同じ認識を持ちつつ、さらに具体的に踏み込んでいろいろなアイデアをいただけたということにつきましては、今回本当にいろいろと充実した御議論をしていただいた上で、引き続き我々としてもそういったのをどういった形で、今後また展開していけるかということを考える材料を多くいただいたなと思っております。

引き続き、また来年度に向けまして、我々のほうとしても今日いただいた宿題等を十分議論させていただいて、施策の充実化につなげてまいりたいと思っておりますので、引き続きの御指導、御支援よろしく願いいたします。

今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○大阪市経済戦略局（淵上課長代理） それでは、次回の評議会開催についてでございますが、こちらは事務局から日程調整の御連絡をさせていただきますので、次年度もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日は以上でございます。

どうもありがとうございました。

閉会 午後4時56分